

2026 年度（当該年度）より、スキーパトロール検定はスキー又はスノーボードのいずれかを受検申込時に選択し、受検できます。

ただし、申込時に選択したスキー又はスノーボードの用具の変更はできません。

下記内容を確認の上、申込みしてください。

□申込み要件

- (1) 受検申込期限までに、受検年度の本連盟会員登録を完了した者
- (2) ①スキーで受検する者の受検資格要件受検申込期限までに、スキー級別テスト1級又はスキープライズテストに合格した者。
又は、スキー準指導員、スキー指導員、功労スキー準指導員、功労スキー指導員のいずれかの資格を有し、資格の状態が有効な者。
(スノーボード級別テスト1級、スノーボードプライズテスト、スノーボード準指導員、スノーボード指導員、功労スノーボード準指導員、功労スノーボード指導員の資格を有していても、上記の資格を有していなければ受検できません。)
- ②スノーボードで受検する者の受検資格要件受検申込期限までに、スノーボード級別テスト1級又はスノーボードプライズテストに合格した者。
又は、スノーボード準指導員、スノーボード指導員資格、功労スノーボード準指導員、功労スノーボード指導員のいずれかの資格を有し、資格の状態が有効な者。
(スキー級別テスト1級、スキープライズテスト、スキー準指導員、スキー指導員、功労スキー準指導員、功労スキー指導員の資格を有していても、上記の資格を有していなければ受検できません。)
- (3) 赤十字救急法救急員認定証（有効期間 5 年間）の交付を受け、検定会までに赤十字救急法救急員認定証の提出ができる者、又は専科教育救急科修了者（消防学校において、250 時間以上の教育を受けた者）で、検定会までに修了証の提出ができる者、又は医師・歯科医師・看護師・准看護師、救急救命士の資格を有し、検定会申込時に免許状の提出ができる者
- (4) 受検する年度の4月1日時点で20歳以上
- (5) 加盟団体が実施するスキーパトロール養成講習（以下「養成講習」という）を修了し、修了証（有効期間 3 年）によって証明された者、又は検定会までに修了証の提出ができる者
※スノーボードで受検希望者は、受検年度開催の養成講習を修了のこと

□申込み方法

- (1) 本連盟会員管理システム「シクミネット」で受検年度の会員登録・決済を済ませてください。
シクミネットから申込み出来ない場合は、所属クラブまたは所属加盟団体に相談してください。
- (2) 受検者は、シクミネットマイページから、申込期間内（2025 年 10 月 22 日（水）～11 月 19 日（水））※¹に下記申込時必要書類をアップロードし、検定会の申込みをしてください。
- (3) 加盟団体は、必要書類に不備がないか確認後、2025 年 11 月 26 日（水）※²までにシクミネットで承認してください。
- (4) SAJ 本部は申込書類審査を行い、不備がなければ参加費支払いに関するメールを、2025 年 12 月 10 日（水）※³までにシクミネットマイページに登録しているメールアドレスに送信します。不備があった場合は申込みが差し戻され受検不可となります。
- (5) 受検者は、参加費支払いに関するメール受信後、支払期限（2025 年 12 月 17 日（水））※⁴までに、参加費（検定料）を支払ってください。参加費の支払いがない場合は、申込みが取り消され、その旨シクミネットマイページにご登録のメールアドレスに通知します。
- (6) 申込時の検定料、合格後の公認料、登録料、バッジ代については次のとおりです。
(申込時) 検定料 15,000 円
(合格後) 公認料 8,000 円、登録料 1,500 円、バッジ代 2,200 円

※受検者ハンドブック（安全対策部）（2025 年 10 月本連盟 HP 掲載版）における※1～4 の日程等については上記のとおり

□申込み時必要書類

- (1) スキー級別テスト 1 級（スキープライズテストを含む）、スノーボード級別テスト 1 級（スノーボードプライズテストを含む）の合格証
（但し、スキー準指導員以上・スノーボード準指導員以上は不要）
- (2) 下記いずれかの認定証等の写し
 - ①有効期限内の赤十字救急法 救急員認定証（有効期間 5 年）
 - ②専科教育救急科の修了証
 - ③医師、歯科医師、看護師、准看護師、救急救命士いずれかの免許状
 - ④赤十字救急法救急員取得見込み、専科教育救急科修了見込みの場合は、赤十字・消防関係資格取得見込届（A4 版 SAJ HP 内ライブラリー掲載様式参照）
- (3) 有効期限内の養成講習修了報告書受検年度に養成講習修了見込みの場合は、養成講習修了見込届（A4 版 SAJ HP 内ライブラリー掲載様式参照）
- (4) 上記（1）～（3）をそれぞれ PDF ファイルにまとめ（両面必要な場合は両面）、アップロードしてください。

□検定会理論の出題範囲・実技テストの種目

- (1) 理論テストは、本連盟の教程等刊行物及び規約・規程（本連盟 HP→ライブラリー内参照）より出題します。
- (2) 基礎種目テスト（スキー又はスノーボード）は、P8 別表①より実施します。
- (3) 搬送種目テスト（スキー又はスノーボード）は、P8 別表②より実施します。

□検定会要項

※当該年度において、規程番号 530「公認スキーパトロール検定規程」（令和 7 年（2025 年）

5 月 29 日改正）第 8 条に基づき、スキーパトロール検定においてスノーボードでの受検を選択した受検者の受検会場は、下記第 2 会場で実施します。申込時に会場を間違えないよう注意してください。

【会期】 2026 年 2 月 21 日（土）～2 月 22 日（日）

【日程】（会場の都合等により変更になる場合があります）

前日	2 月 20 日（金）
13:00～18:00	役員集合・検定会役員会議（本部宿舎）
第 1 日目	2 月 21 日（土）
08:30～09:00	受検者受付
09:00～09:30	開会式
10:00～12:00	実技テスト
13:00～15:00	実技テスト
第 2 日目	2 月 22 日（日）
09:30～10:30	理論テスト
12:00～13:00	閉会式・合格発表・諸手続き

第 1 会場（スキー受検会場）

【会場】 北海道 美唄国設スキー場

【本部宿舎】 ピパの湯ゆ～りん館

〒072-0808 北海道美唄市東明町 3 区

TEL 0126-64-3800

FAX 0126-63-2115 【現地連絡先】 三浦 聡子

メール：satto8541@gmail.com 携帯電話：080-3233-0688

第2会場（スキー・スノーボード受検会場）**【会場】** 岐阜県 飛騨ほおのき平スキー場**【本部宿舎】** 平湯プリンスホテル

〒506-1433 岐阜県高山市奥飛騨温泉郷平湯 128-6

TEL 0578-89-2323

FAX 0578-89-2305 **【現地連絡先】** 内方 陽一

メール: yoichi.u0117@gmail.com 携帯電話: 090-3568-9987

【検定会受付時必要書類】

- (1) スキーパトロール養成講習修了報告書（写）
※受検年度に養成講習修了する受検者が対象
- (2) 赤十字救急法救急員認定証（写）、専科教育救急科修了証（写）
※受検申込時に赤十字救急法救急員取得見込み、又は専科教育救急科修了見込みで、赤十字・消防関係資格取得見込届を提出した受検者が対象
- (3) 公的本人確認書類（運転免許証、パスポート、マイナンバーカード、健康保険証）のいずれか1点

【検定会携行品】 日本スキー教程安全編（2024年10月発行）、受検者ハンドブック（安全対策部）
（2025年10月本連盟HP掲載版）、筆記用具、保険証、スキー又はスノーボード用具、ヘルメット

【宿舎】

会期中及び前後の宿泊は各自で手配が基本ですが、必要なら現地連絡先で宿舎を紹介します。

【欠席連絡】

- ・欠席者は、所属加盟団体（都道府県スキー連盟）と現地連絡先に、氏名・会員番号・イベント名・会場・チケット名を連絡してください
- ・加盟団体は、欠席者からの欠席連絡を受け、所定の様式で欠席届をSAJ事務局普及事業課にE-mailで連絡してください

【その他】

- ・期間中の遅参・早退・欠科目は認めません・実技テストではヘルメットを着用すること

【規程番号531「公認スキーパトロール検定基準と実施要領」の別表】

別表① 公認スキーパトロール検定 基礎種目テスト（スキー又はスノーボード）実施要領

区分	実技種目	斜面／回転数	実技の内容	評価の観点
制動技術	【スキー】 ブルークボーゲン	・整地／中急斜面 ・中回り ・6回転以上	・制動を主体とした回転技術	<ul style="list-style-type: none"> ・ターン運動の構成（ポジショニング、エッジング） ・斜面状況への適応度（スピードと回転弧のコントロール） ・運動の質的内容（バランス・リズム・タイミング）
	【スノーボード】ミドルターン（スライド）	・整地／中急斜面 ・中回り ・6回転以上	・ズレの多い、制動を主体とした回転技術	
	【スキー】横滑り	・整地／中急斜面 ・ブルークスタンスでの左右の切り換え4回以上 ・ピボット操作での左右の切り換え4回以上	・種類の異なる切り換えを連続して行う ・スピードコントロールとフォールライン方向維持	
	【スノーボード】スリップ to スリップ	・整地／中急斜面・切り換え4回以上	・スピードコントロールとフォールライン方向維持	
応用技術	【スキー】パラレルターン (小回り)	・整地／急斜面	・各種地形・雪質への対応 ・滑らかで安定した操作	

	【スノーボード】ショートターン	・整地／急斜面	<ul style="list-style-type: none"> ・リズムを一定に保ち、バランスのとれたスムーズなショートターン。 ・タイミング、方向、量、それらを小さなターンスペース内に収めるためのポジションを意識
	【スキー】パラレルターン（大回り）	・整地／急斜面	<ul style="list-style-type: none"> ・各種地形・雪質への対応 ・滑らかで安定した操作
	【スノーボード】ミドルターン	・整地／急斜面	<ul style="list-style-type: none"> ・リズムを一定に保ち、落差と横幅が整った滑らかなターン ・ズレの少ないターン

別表② 公認スキーパトロール検定 搬送種目テスト（スキー又はスノーボード）実施要領

区分	実技種目	斜面／回転数	実技の内容	評価の観点
搬送技術	制限搬送	<ul style="list-style-type: none"> ・整地／緩中斜面 ・大回りと浅回り 10～15 旗門を含む複合コース 	・仮傷病者をのせたアキヤボートを後方 1 人操作で搬送する	<ul style="list-style-type: none"> ・安定を優先したスムーズな操作 ・指定条件の達成
	真下搬送	<ul style="list-style-type: none"> ・整地／中急斜面 ・斜度に合わせた旗門間隔、旗門距離でオープンゲート 4 セットで構成されたコース 	・仮傷病者をのせたアキヤボートを後方 1 人操作で搬送する	

別表③ 公認スキーパトロール養成講習実施要領

I. 理論講習 15 時間（集合講習 6 時間、自主学習 9 時間）

講習科目	時間	内容
序 論	1.0	①スノースポーツを取り巻く環境 ②スノースポーツに内在する危険 ③スノースポーツ事故の実態 ④安全なスノースポーツ環境の創出に向けて
安全な滑走のために	1.0	①スキーヤーの責務 ②引率者・指導者および受講者の責務 ③救助義務 ④個別性に対する安全対策 ⑤冬山の自然 ⑥用具と安全 ⑦事故の法的責任
山岳スキー（BC スキー）	1.0	①雪山とスキー場 ②装備 ③訓練をする ④計画を立てる ⑤状況に気づく ⑥リスクを減らす
スキーパトロール概論	1.5	①スキーパトロールとは ②スキーパトロールの業務内容 ③スキーパトロールに求められる知識・技術 ④索道と雪上車両
スノースポーツの医学	1.5	①スノースポーツ救急法概論 ②スノースポーツの外傷・障害

II. 実技講習 22.5 時間（集合講習 14.5 時間、自主学習 8 時間）

講習科目	時間	内容
基礎種目制動技術 (スキー又はスノーボード)	3.0	スキーパトロールとして必要な、制動技術・回転技術・総合技術を用いた 【スキー】プルークボーゲン、横滑り、片開きプルーク（別表④講習内検定） 【スノーボード】ミドルターン（スライド）、スリップ to スリップ、ストレートランニング～スリップ to スリップ（別表④講習内検定）
基礎種目応用技術 (スキー又はスノーボード)	2.0	【スキー】パラレルターン（小回り、大回り） 【スノーボード】ショートターン、ミドルターン
搬送種目 (スキー又はスノーボード)	5.5	仮傷病者をのせたアキヤボート後方一人操作で制限搬送 （浅回り搬送、大回り搬送） 真下搬送
救急法	2.0	赤十字救急法講習教本に示す三角巾包帯法及び止血法 （別表⑤講習内検定）
ロープ操法	2.0	日本スキー教程安全編（2024 年 10 月発行）に示すロープワーク（別表⑥講習内検定）

別表④ 公認スキーパトロール検定 基礎種目制動技術講習内検定（スキー又はスノーボード）実施要領

区分	実技種目	斜面／回転数	実技の内容	評価の観点	合否判定
制動技術	【スキー】 片開きプルーク	<ul style="list-style-type: none"> ・整地／中斜面 ・左右の切換え 4 回 ・直滑降、切換え、停止ゾーン指定 	<ul style="list-style-type: none"> ・スピードコントロールとフォールライン方向維持 	<ul style="list-style-type: none"> ・ターン運動の構成（ポジショニング、エッジング） ・斜面状況への適応度（スピードと回転弧のコントロール） ・運動の質的内容（バランス・リズム・タイミング） 	100 ポイント満点とし、75 ポイント以上を合格とする
	【スノーボード】スト レートランニング～スリ ップ to スリップ	<ul style="list-style-type: none"> ・整地／中斜面 ・切換え 4 回 ・直滑降、切換え、停止ゾーン指定 	<ul style="list-style-type: none"> ・滑らかで安定した切換え操作 		

別表⑤ 公認スキーパトロール検定 救急法講習内検定実施要領

区分	課題	条件	方法	評価の観点	合否判定
止血	出血に対する手当として、直接圧迫止血法（１種目）と止血帯止血法（２種目）を出題する	<ul style="list-style-type: none"> ・検定員は、受検者を事前にバディを組ませ、一方を救助者、他方を傷病者とする ・具体的に、患部及び状態を指定する ・傷病者の体位は、検定員が指示する ・止血帯は、素早く実施することが原則であり制限時間は設けないが、検定中に緊縛時間が長くならないように配慮する 	<ul style="list-style-type: none"> ・救助者と傷病者は向かい合って位置する ・救助者は、検定員の「始め」の合図で、手技を開始する ・救助者は、検定員の「止め」の合図で、手技を終了する ・検定員は手技を採点する ・救助者と傷病者は、役割を交代する 	a. 直接圧迫止血法 <ul style="list-style-type: none"> ・患部の状況にあった保護ガーゼを当て、手全体で圧迫しているか ・救助者の位置、姿勢は良いか b. 止血帯止血法 <ul style="list-style-type: none"> ・止血帯を巻き付ける位置は正しいか ・棒やロッドの固定は確実にできているか ・三角巾やバンドは緩くないか ※種目ごとに以上のポイントを目安に判定する	1 種目あたり 100 ポイントとし、8 種目の合計が 600 ポイント以上を合格とする
包帯・固定（副子を使用しないもの）	<ul style="list-style-type: none"> ・きずに対する手当として、三角巾（額、頭、前腕 a、膝、腕のつり a から 4 種目）を出題する ・骨折、脱臼、捻挫に対する手当として、副子を使用しない固定（鎖骨骨折固定、足首捻挫固定から 1 種目）を出題する 	<ul style="list-style-type: none"> ・検定員は、受検者を事前にバディを組ませ、一方を救助者、他方を傷病者とする ・救助者は、保護ガーゼ、三角巾等を用意する ・具体的に、患部及びきずの状態を指定する ・傷病者の体位は、検定員が指示する ・三角巾は開き三角巾の状態から始める ・制限時間は、概ね次の時間を目安とする三角巾 1 枚を使用するものは 1 分 30 秒三角巾 2 枚を使用するものは 2 分 30 秒 	<ul style="list-style-type: none"> ・救助者と傷病者は向かい合って位置する ・救助者は、検定員の「始め」の合図で、手技を開始する ・救助者は、検定員の「止め」の合図で、手技を終了する ・検定員は手技を採点する ・救助者と傷病者は、役割を交代する 	a. 保護ガーゼ（固定は除く） <ul style="list-style-type: none"> ・確実に患部を覆っているか ・きずにあった厚さ、広さになっているか b. 包帯の巻き方 <ul style="list-style-type: none"> ・手順通りに出来ているか ・たるみがなく保護ガーゼが支持されているか ・患部を十分に覆えているか ・本結びになっているか ・末端の処理はよい c. 締め具合 <ul style="list-style-type: none"> ・きずにあった締め具合になっているか d. 結び目の位置 <ul style="list-style-type: none"> ・基本的に外側、上部で結ばれているか ・きずを避けた位置で結ばれているか e. その他 <ul style="list-style-type: none"> ・傷病者を手荒に取り扱っていないか ・保護ガーゼ、包帯の扱いは良いか ・全体のバランスは良いか ・時間内にできたか ※以上のポイントを目安に判定する	

別表⑥ 公認スキーパトリール検定 ロープ操法講習内検定実施要領

区分	課題	条件	方法	評価の観点	合否判定
ロープ 操法	日本スキー教程 安全編 (2024 年 10 月 発行) に示す 結びの種類か ら 8 種目を出 題する	<ul style="list-style-type: none"> ・ 検定に使用するロープは、外径 7.0 ～ 12.0mm、長さ 5 m、材質はロープ検定種目に適したものとする ・ 検定員は、結びの種類を指定する ・ 受検者は、ロープ末端を片手で保持した状態で待機する ・ 制限時間は、全種目とも 40 秒とする 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 受検者は、検定員の「始め」の合図で、手技を開始し、「止め」の合図で、手技を終了する ・ 検定員は評価の観点に基づき採点する 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 輪の大きさ（種目の用途に適しているか） ・ 末端の長さ（一握り程度の長さか） ・ 結束の強さ（結びが緩んでいないか） ・ 時間（制限時間内に結束できたか） 	1 種目あたり 100 ポイントとし、8 種目の合計が 600 ポイント以上を合格とする